

岡崎市社会資本整備総合交付金

「新世紀岡崎 浄化循環のみち下水道」事後評価 議事録

日時：平成30年2月7日（水） 15：15～

場所：岡崎市役所 東庁舎5階 503号会議室

出席者

（評価委員）

委員長：愛知産業大学学長 堀越 哲美 氏

委員：日本政策投資銀行業務課長 奥村 朋久 氏

委員：名城大学理工学部教授 松本 幸正 氏

欠席者

（評価委員）

委員：豊橋技術科学大学 井上 隆信 氏

委員：愛知工業大学工学部教授 松本 壮一郎 氏

（事務局）

岡崎市総合政策部企画課係長 植村

岡崎市総合政策部企画課事務員 藤井

岡崎市上下水道局下水工事課係長 権田

岡崎市上下水道局下水工事課技師 垣本

（傍聴人）

なし

事務局	（「新世紀岡崎 浄化循環のみち下水道」の、指標、実績、指標達成状況、評価について説明。）
奥村委員	<p>今後見直し区域等の区別をつけていくのは大切だと考えるが、今回の計画では見直し区域等をどのような観点で決められたのか。</p> <p>また今後も効率的整備に努めるとのことだが、整備だけでなく効率的な維持管理に関しても念頭に置いて、整備もしくは整備区域を議論していった欲しい。</p>
事務局	<p>整備計画のエリアについては、当初は7000ヘクタールあった。これを6310ヘクタールとして、約700ヘクタール見直しを図った。</p> <p>今回の汚水適正処理構想では、今後10年間で公共下水道、農業集落排水、合併浄化槽等で、100%整備することが求められている。そのため、人口減少等の社会情勢や、今後の維持管理等を踏まえて、投資費用、回収性を検討し、下水道区域の選定を行った。</p> <p>また、市街化調整区域の各町の市民の意向を聞き、下水道賛同率が75%以上ない地域については、整備を先送りにし、効率的な整備ができるように努めている。</p> <p>維持管理についても、適正な維持管理を図りながら今後も効率的な整備を図っていきたい。</p>
松本（幸）委員	今の件について、整備しないところは、全て合併浄化槽で処理するということか。
事務局	今回赤で図示してあるところは、合併処理浄化槽で整備していく。
松本（幸）委員	それはどれくらい整備されているのか。
事務局	環境部が合併浄化槽を受け持っているため、把握していない。10年概成という中で、昨年補助率を上乗せして、より単独浄化槽から合併浄化槽へ転換をしやすくして、対応している。
松本（幸）委員	<p>本来の目的に合わせると、「衛生環境の保全」ということでできるだけ処理を進めて欲しい。環境部とも連携しながら行っていただきたい。</p> <p>また18頁だが、計画の成果目標のところでは1番下水道処理人口普及率が86.7%から88.4%へ増加させると書いてあるが、これは実績ではないか。目標は88.3ではないか。</p>
事務局	指摘の通りであるため、訂正させていただく。
松本（幸）委員	では実際には目標を上回っているということだが何が要因か。
事務局	<p>要因の一つには工事費の縮減という面もある。本市では様々な手法があるが、マンホールを随所に置いていくとそれなりの費用がかかってしまうので、中間のマンホールを取り除くような整備を行った。また人口が密集したところでは効率性が生まれるので、ある程度の人口を有していたところで整備を行った。それらが要因で目標を上回ったと考えている。</p>

松本（幸）委員	もう1点、目標指標があくまで接続可能な地域となっているが、大事な のはこれが実際に接続されるかどうかだと思ふ。そのことについて触れ られていないが、どのように考えているか。
事務局	まずは繋げる状態の整備をしようとしている。状況として、本市では整 備を行ったところの約95%の方が接続しているが、残りの5%は接続し ていない。繋いでない方に対しては、啓発活動として戸別訪問を行って いる。年間で2000戸程度を対象に訪問をしている。
松本（幸）委員	特にそれは明記しないのか
事務局	今後の方針の「持続可能な汚水処理を行うことにより、公衆衛生の向 上および公共水域等の保全を図る」の後に、「なお今後も接続の向上に努 める」という文言を追記することでよろしいか。
松本（幸）委員	それで良い。

【結果】

この事後評価案が妥当であることを判断する旨、委員一致で採決された。